

図書館だより

— 新入生歓迎号 —

第31号 平成16年4月12日
高松工業高等専門学校図書館
TEL (087) 869-3813
FAX (087) 869-3948

新入生の皆さんへ

図書館長 長谷川 隆



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんはこれから勉学等に励まれることと思いますが、そのためには図書館を十分活用しなければなりません。そこで、本校の図書館の特徴についてお話ししましょう。

第一に利用のしやすさです。手続きせずに勝手に本などを持ちだそうとすると警報が鳴る「ブック・ディテクション」(BD)があり、閲覧室へのかばんの持ち込みが自由です。また、蔵書の検索は館内や校内のパソコンで簡単にできるようになっています。

第二に安全性です。閲覧室が耐震構造になっていますので、少々地震にも耐えられます。

第三に貸出期間の延長です。今まで「5冊以内、10日以内」であったものを、この4月から「5冊以内、2週間以内」にしました。なお、開館日・開館時間は従来通り平日は9時から20時まで、土曜日は10時から16時30分までです。日曜日は残念ながら開けていませんが、定期試験の期間中に限り、特別に10時

から16時30分まで開けるようにしています。

第四に電子ジャーナルの利用です。新入生にはまだ早いかもしれませんが、研究する上でこれから必要になると思います。必要な論文を検索するためにはとても便利なものです。館内や校内のパソコンで利用することができます。

最後にお願いしたいことがあります。図書館を利用するときにはルールをきちんと守ってほしいということです。高松市図書館では1992年度に開館して以降12年間で約24,000冊の蔵書が紛失しました。市図書館ではこれから全館でかばんの持ち込みを禁止するそうです。

残念ながら本校図書館でも少なからず紛失図書があります。先日ある学生が私に訴えてきました。私が授業中に推薦した、村上春樹の『海辺のカフカ』(上・下)が図書館に見あたらないということでした。早速調べてみると「上」がなくなってしばらくして「下」もなくなっていたとのことです。心ない一部の学生のせいで他の学生が迷惑を被っています。すぐに図書館に返すようにしてください。図書館入口の「図書返却ポスト」に入れてくれてもかまいません。なお、1階談話室には係の人がいませんが、やはり、そこにある雑誌を借りるときには2階カウンターで手続きをしなければなりません。

(はせがわ・たかし)

小説と意識

一般教育科 英語 寺西 雅之



他人の出入りする居間で数々の名作を書き上げたジェーン・オースティンに対し、同じ女性作家として「自分だけの部屋」を求めたヴァージニア・ウルフはフェミニスト達の拠所の感がある。そのウルフの小説家としての功績の一つは意識描写の革新であろう。彼女はリアリズム小説の特徴である外的事象の客観描写を批判し、「人生とは断片的に心に浮かぶ意識の連続」であると主張した。意識をそのまま映し出す形式を追い求め、いわば「内面のリアリズム」を追求したウルフではあったが、小説は絵画と異なり直線的なものであり、複数の事柄が同時に沸き立つ「意識」をいかに描出するかという難題に直面する。

『ダロウェイ夫人』は、「意識」のリアリティを具現化した難解なウルフ小説の中では比較的読みやすい。(もちろん、読者が物語の展開ではなく人物の「意識の展開」を追うことが前提ではあるが。)なおこの作品は、ニコール・キッドマンがウルフを演じて話題となった映画「めぐり逢う時間たち」でも取り上げられている。

『考える…』は「AI(人工知能)」は「意識」を解明できるかという問題を扱った小説である。認知科学者ラルフが、「認知科学の関心は主観的な1人称的現象を客観的に3人称的に説明することにある」と言うと、作家ヘレンは、「小説家はそれを200年間やってきているのよ」と反論する。すなわち本人にしか分からない「1人称的」現象である意識を他人が客観的な「3人称立場」から描出する自由間接話法は、前述のオースティンが初めて小説で意識的に用い、ウルフが発展させていった技法なのである。

『考える…』は作品を通じて男性の意識が暴かれ、ウルフ作品と比べ「下品」な点は否めないが、一般読者でも十分楽しめる。

『アマターバー — 無量光明』(長谷川先生の教育相談室便り参照)等の作品の人气が物語っているように、我々日本人の「意識」に対する関心も確実に高まっている。小説家ソール・ベローは、「内面描写において文学にかなうものはない」と映像文化全盛に懐疑を示しているが、少なくとも「人間性」という目に見えないもの、計り知れないものを理解しようとする際、小説が果たす役割は今後も減ずることはないであろう。

ヴァージニア・ウルフ著、『ダロウェイ夫人』(原題Mrs.Dalloway)

デヴィッド・ロツジ著、『考える…』(原題Thinks…)
(てらにし・まさゆき)

冬休み二千ページ 読書記

一般教育科 数学 高橋 宏明



年末に腰を痛めて、お正月にかけてほとんど寝てばかりの生活だった。おかげで家はさっぱり片付かなかったけれど、ここ何年もないくらい沢山の本が読めた。腰痛にだって少しは楽しいことがなくちゃね。今、朝日新聞の最高の読み物は、間違いなくTETSUYA（こと明川哲也）のティーンズメールだ。「メキシコ人…」はその明川哲也の長編ファンタジー。「憂鬱の砂嵐」に蝕まれつつある世界を救うために、NY在住の調理師、44歳薄毛のタカハシさん（え？）が2匹のネズミとメキシコに向かう物語、という何だかあまり冴えない感じですね。でもこれは本当に素晴らしい本だった。

特に、旅の最初の挿話（色を無くした村）に秘められた闇の深さ、そしてそこからの回復の美しさは圧倒的な印象を残す。後半でやや緊張がゆるむ部分があるのがちょっと残念だが、職業柄「憂鬱の砂嵐」に日々苛まれがちな教師にとっては、年末の素敵な贈り物になった。

パツとしない主人公が世界を救う旅に出るという設定では、エンデの「果てしない物語」あたりが有名だが、こちらの方が優れた作品だと思う。ファンタジーおたくでない人に特にオススメしたい。

「本格小説は」は懐の深い小説だ。あまり小説を読んだことのない人でも、波乱万丈のストーリー（お嬢様と貧しい少年の宿命の恋！）を追うだけで、徹夜してしまうくらい楽しめると思う。もう少し本を読み込んだ人なら、物語の中から戦後50年にわたる日本社会の変容が鮮やかに浮かび上がるのを読み取れるだろう。そして、複雑な（しかし必然性のある）語りの構造や、「嵐が丘」をはじめとするいくつかの古典的な「本格小説」が物語の中に透かし模様のように埋め込まれていること、この小説全体が刺激的な小説論として読めることなど、重症の本中毒患者もうならせてしまう仕掛けもたっぴりと仕込まれている。しかも、このすごい切れ味の日本語！

要するに傑作だと思う。読むにあたっては、作家とは（人間とは、というべきかもしれない）嘘をつかずにいられない生き物だ、ということを頭に置いておきましょう。

他の本については手短に。

「静かな大地」は、明治時代の北海道でアイヌとの共存を試みた開拓民の物語。ということで現実の社会に深く関わるテーマの作品だが、社会派小説というにはあまりに透明で美しく哀しく、むしろ神話とか叙事詩のような感触がある。読んだあとの静かな切なさが格別。

芥川賞ではあまり驚いたことがないけれども、「阿修羅ガール」が三島由紀夫賞受賞、というのはちょっと凄い。三島がこれを読んだら何と言っただろうと考えるだけで楽しい。誰にでもオススメは出来ないというところだけは三島と共通しているか。

舞城王太郎や阿部和重（多分乙ーなんかも）の小説では、世界の見え方や感じ方がかつての小説とは根本的に違っているのだと思う。そして、その違いは私の世代よりも学生の皆さんのほうがずっとリアルに感じられるのではないだろうか。ここしばらく、そのあたりのことを誰かと話したいとずっと思っている。お話しに来てくれる人いませんか？

今回読んだのはここ数年以内に書かれた最新の小説ばかりだった。新しい作品は古典と違って評価が定まっていないので、自分で読み方を探っていかなければならないのが、楽しくもあり難しくもあるところ（特に舞城）。いや、もちろん楽しかったんですけどね。

「メキシコ人はなぜハゲないし、死なないのか」明川哲也著、664ページ

「本格小説」水村美苗著、881ページ

「静かな大地」池澤夏樹著、629ページ

「阿修羅ガール」舞城王太郎著、284ページ

（たかはし・ひろあき）



Beagle

私と本との出会い ～ガンダム世代編～

制御情報工学科 由良 諭



小学生のころ、私は徳島県の中央部分に住んでいたため、TVシリーズ「機動戦士ガンダム」¹⁾（以下ファーストガンダムと呼称）を観るときは、毎週テレビの中の砂の嵐²⁾と闘いを繰り広げておりました。同級生の中には、高性能のテレビアンテナをつけている者がおり、彼はよく前日のストーリーを自慢気に話しておりました。私はその話を聞いたたびに「昨日はそんなストーリーだったのか?!」とか「いつかは俺もよく映るテレビと性能の良いアンテナを手に入れてやる。」と悲喜交々の想いを持ったものです。このようなエピソードから、私は今でもガンダムと聞くと胸が熱くなります。

さて、本年度はファーストガンダムが放映されて25周年（私の記憶が正しければ）ということもあり、新たな設定で「機動戦士ガンダムSEED」³⁾が民放テレビで放映されました。この番組を私が初めてテレビで観たとき、ファーストガンダムと比較して、アニメーションの美しさに、技術の進歩と隔世の念を感じずにはおれませんでした。しかし、ストーリ

ーだけを比較すると、世界観や反戦に対するメッセージ、人物キャラクターの魅力などはファーストガンダムの方が優れていた、と感じました。このため、美しい絵のファーストガンダムを再び観る（見る）ことはできないか、と強く考えるようになりました。私が「機動戦士ガンダム THE ORIGIN」（描画：安彦良和、原案：矢立肇、富野由悠季、メカニックデザイン：大河原邦男、角川書店）と出会ったのは、この頃でした。ストーリー設定は私の知るファーストガンダムとほぼ同じ（題名の通り、むしろこちらがオリジナル）で、さらに小学生当時には知り得なかった背景についても詳しくかつ美しく描かれているため、ガンダムに対する認識をさらに深くすることができました。本書は漫画でありながら、色々なメッセージを含む大作です。学生のみならず、「ガンダム世代」の大人にも目を通していただきたい作品です。

- 1) 1979年よりテレビ朝日系列で放映されたテレビアニメーション。いわゆるファーストガンダム。
- 2) ノイズや、キー局からの距離が遠いため、テレビが観にくい状態を示す言葉。
- 3) 2002年よりTBS系列でスタートした新しいガンダム。略称SEED。

（ゆら・さとし）

修了生から

図書館利用のヒント

機械電気システム工学専攻科修了生
大西 諒



高専に入学するまでは、図書館を時々利用する程度だった。しかし、今では図書館だよりの原稿を依頼されるほど頻繁に図書を借りるようになった。僕自身、それほど本を借りた気はないのだが、よく利用していたようである。高専の図書館で借りた本は、専ら工学専門書だった。高学年になるほど専門の授業数も増え、4・5年では専門がメインになる。授業内容を理解するためにも、教科書に加えて図書館で本を借り、補うことが多かった。そう考えてみると、やはり頻繁にお世話になったのかもしれない。

さて、図書館を長年利用した学生として、ちょっとした利用法をお教えしたいと思う。①蔵書検索は、学内であればインターネットを用いて利用可能である。研究に便利。②検索で見つかった本が分類場所の本棚の無い場合は、検索結果の保管場所を確認する。教官室となっている場合、図書館内ではたいてい見つからない。貸出中なら、もちろん見つからない。

③閲覧室に保管とされていても見つからない場合は、係りの人に尋ねてみる。稀にカウンター奥の部屋で見つかることがある。奥の部屋でも見つからない場合は、犯罪の予感。④CD付属本の場合は、CDも借りることをこちらから係りの人に申し出ればよい。この場合、CDを1枚借りたことにもなるので注意。⑤係りの人に紹介状を書いてもらうと、大学図書館の利用もできる。…ここで挙げたことを知っている人もいだろうが、これから頻繁に利用しようとする人へのヒントになればと思う。

最後になったが、個人的に図書館に望むことがある。それは、論文誌の所蔵をもっとしてほしいということだ。研究によっては、市販書籍だけでは情報収集や対応ができない場合がある。専攻科も設置されているし、論文誌の所蔵も充実してもらえれば、図書館の利用価値がさらに増すのではないだろうか。

（おおにし・りょう）



卒業生から

徒然なるままに 図書館に

機械工学科卒業生
造田 学



この前入学したばかりだと思っていたのに気がつけばもう卒業間近、思えば図書委員でありながら図書館をあまり有効に利用していなかった気がする。

こんな僕がなぜ図書委員になろうと思ったのかというと、それはブックハンティングにある。これは、図書館に入れる本を学生が自由に選んで買えるという夢のような企画で、主に図書委員が率先して行う行事だ。とはいえ、使える金額の限度は一万円程度で、何でも買えるからと適当に選んでいるとすぐに無くなってしまふ額だ。一瞬たりとも気がぬけない。まさに真剣勝負である。しかし、敵は金額だけではないのだ。その後、先生や図書館の職員によるチェックを通らねばならず、これをクリアしない限り夢を掴むことは出来ない。しかし、その分やりがいがあり充実感がある。

その夢のようなブックハンティングに実は図書委員でなくても参加出来る事をみんなは知っているだろうか？これを機会にぜひ参加して欲しい！そうすれば、きっともっともっと図書館が好きになるだろうから……。

(ぞうだ・まなぶ)

図書館を利用して

電気工学科卒業生
清 秀樹



この学校に入学して、もう5年。これは、今から思うと長かったような気もしますし、短かったような気もします。特に、専門科目でのレポートには、かなり苦しみられ、それを思い出すと、この5年間でものすごく長かったような気がします（そして今も参っています）。教科書は、必ず役に立つということはありませんでしたし、友人に聞いても確実ではなかったし……そんな時に役立ったのが、高松高専の図書館にある、よく整理された専門書でした。学校にあるので、レポートの問題によく似た例題が載っている専門書が、多くあって、随分助かりました。

それに、夏は涼しく、冬は暖かい図書館は、冷暖房が不十分な教室に比べると、まさに天国でした。

そして何より、古今東西の色々な本・雑誌・ビデオやCDなどがあって、それを借りて楽しめる、ということが一番ありがたかったです。何を借りようと、どうせタダなので、気楽なものです。

最後にお約束ですが、借りている資料は期限内に必ず返して下さい。特に、専門書などは一人が独占して使っていると困ります。一人が独占して使っていることで、テスト期間中に問題が分からずに苦しむクラスメートがいるはず。助け合いの精神で貸出期限は守って下さい。

(せい・ひでき)

静かな図書館

制御情報工学科卒業生
天雲 慎吾



この高専にきてから、はやくも5年がたち、この図書館にはお世話になりました。本を読むのが好きかと言われると正直それほど好きではありません。しかし、図書館は静かで落ちつくので、勉強とかで本当にお世話になりました。たまに本を読んだりしましたが、図書館は静かで集中して読めるので、時間がたつのがはやく感じられます。それにけっこうきれいなので、とても寄りやすい感じです。

でも、たまにうるさいやつとかがいて、勉強に集中できないときがありました。図書館は静かにするところなので、人に迷惑をかけるのはやめましょう。

自分はあまり読書する人ではないのですが、5年になって図書委員になってしまいました。そこで感じたのが、みんな返却期限のこと気にしてなさすぎ……ということ。多少はいいのだけでも、早く返して下さいというのがいくつかありました。

最後に、図書館は本当にいい所です。

(てんくも・しんご)

本の有り難さ

建設環境工学科卒業生
中山 美樹



誰かに思いを伝えるとき、うまく言えなくてもどかしい思いをしたことが私には何度もあります。そんな私に少しでも共感をもってくれたものは本です！本を読んでみて下さい。本を読むとあらゆる立場の人の意見を知ることができます。自分の中にはなかった言葉や表現方法を見つけることができます。きっと考えの幅が広がると思います。

図書館にはいろいろな種類の本があります。見つけることが困難であれば、パソコンを使って検索することもできるし、職員の方が親切に教えてくれます。静かで、集中して勉強する場所としても最適です。私も、就職勉強をする際には随分お世話になりました。

皆さんも、せっかく時間も施設もあることだし、利用してみて下さい。

(なかやま・みき)

『表現を味わうための日本語文法』

森山卓郎著 (岩波書店)

「千円からお預かりします」という言い方を言葉の乱れとして切るのではなく、使う人の立場に立ってその発想を解明しようとしている。文法嫌いでも日本語を普段使っている人なら理解できる入門書といえるだろう。日本語文法に改めて魅力を感じる。

一般教科教官 長谷川 隆

『武士道解題』

李登輝著 (小学館)

明治時代にベストセラーになった「武士道」という本がある。この本を、終戦まで日本人だった元台湾総督、李登輝氏が分かりやすく解説したのが、この「武士道解題」だ。映画「ラスト・サムライ」で描かれた、日本人の心としての武士道が注目を浴びている今、ぜひ読んでほしい一冊。

1年3組 田中 百合

『軍艦 武蔵 上・下』

手塚正己著 (太田出版)

日本が建造した世界最大の戦艦“武蔵”その乗組員達の証言を元に作られたノンフィクションである。不沈艦武蔵の出港から沈没するまで、そして、生き残った乗組員のその後、終戦までが克明に書かれている。戦争当時の様子の一端を知ることができる。資料としても有用だろう。

4年S組 柴田 文明

『よみがえる古代大建設時代』

大林組プロジェクトチーム著 (東京書籍株式会社)

本書は大林組の建設技術者たちの目で、かつての古代の巨大建設物を実際に建設する場合と同じ検討や作業を表した想定復元書である。この建設技術者たちの語りは、あとに続く後輩の学生たちに夢と文化を伝えている。かつて同じ道を歩んだ人びとのもつ素晴らしさを実感させてくれる本。

建設環境工学科教官 松原 三郎

『無神経な人に傷つけられない88の方法』

香大教授 岩月謙司著 (大和書房)

心にビタミン剤が必要な方、心の感度の高い方は特に必読。身近に無神経な人がいるという方もどうぞ。人に誤解されることが多かったぶんだけ、あなたにはすごい才能が眠っている可能性があるらしい。これを読むと、自分への傾向と対策が分かってくるかも…しれない。

3年S組 岸 寿子

『図解 PICマイコン実習』

堀桂太郎著 (森北出版)

PICは、ワンチップマイクロコンピュータで1個の小さなパッケージにマイコン制御に必要な機能が内蔵されています。使いやすいミドルレンジシリーズのPIC16F84Aを選び、その基礎と使い方を例題や演習を通して解説してあります。あなたも自作のPIC電子工作を作ってみませんか?

電気情報工学科教官 堀内 紀充

『少年H』上巻・下巻

妹尾河童著 (講談社)

この小説は、筆者の少年時代を描いたものです。少年Hの眼を通して、あの戦争の時代の人々の生活がとてよよくわかります。単なる小説として読みたい人にも、当時の生活を知りたい人にもおもしろく読んでもらえる作品です。ぜひ読んでみてください。

2年M組 島村 豪敏

『続・はんだ付技術なぜなぜ100問』

大澤 直著 (工業調査会)

エレクトロニクス製品の組み立てに不可欠な「はんだ付技術」に関する100の疑問に答える本。簡単そうで、なかなかきれいに仕上がらない奥の深さを持つはんだ付。自作電子回路の誤動作や不安定動作に苦しめられているあなたにお薦め! 既蔵の「はんだ付技術なぜなぜ100問」と合わせて読もう。

制御情報工学科教官 平岡 延章

『天路歷程物語 危険な旅』

ジョン・バニアン著 中村妙子訳 (新教出版社)

この本は、昔、イギリスのヨークシャーテレビで放映されたアニメドラマを絵本にしたものです。ものすごく大きな重荷を背負った男クリスチャンがその重荷から開放される(救われる)ための旅に出ます。しかしその先には数々の困難が…。心に大きな重荷を背負った方、ぜひ一度読んでみては?

3年E組 三好 友基

『マリア様がみてる』

今野緒雪著 (集英社コバルト文庫)

この物語の舞台は、とても変なお嬢様学園です。ここには特別な風習があり、教育の一環として上級生と下級生が義姉妹の盃を交わすという鼻血が出そうな設定があります。しかし、決して不純な内容は含まれてないので安心してください。ごくフツウの学園コメディです。ぜひ読んでみてください。

匿名希望

『磁力と重力の発見(1)~(3)』

山本義隆著 (みすず書房)

全く新しいことを考えるのは途方もなく難しいことだ。間に力を伝えるものが何もないのに離れたものに力を及ぼす磁石をどう考えるかは、近代物理の大いなる試練だった。これは「遠隔力」を中心にした、手に汗握る科学史の名著。書いたのが、大学の先生でなく有名予備校の講師というところもスゴい。

一般教科教官 高橋 宏明

『世界を制した中小企業』

黒崎 誠著 (講談社)

技術力で、アイデアで、そして不屈のモノづくり魂で世界シェアを持つ小さな企業を紹介した本。消費財を大量生産・大量販売する有名企業とは一味違った個性豊かな企業が日本にはたくさんある。この本には取り上げられていないが、香川県にも世界的シェアを持つ小さな企業はある。

制御情報工学科教官 平岡 延章



◆図書館に新しく入れた本



新
着
図
書
か
ら

『ボウリング・フォー・コロナイン(DVD)』
マイケル・ムーア監督

コロラド州コロナイン高校で起きた銃乱射事件をきっかけに、なぜ米国で銃犯罪が多発するのかについてマイケル・ムーアが調査していく形のドキュメンタリー映画。白人のアメリカ人男性がこの映画を作ったというところに、問題山積のアメリカ社会にもまだ救いはあると感じられる。

一般教科教官 有道 祐子

『戦うボーイ・ミーツ・ガール』
(富士見ファンタジア文庫)

「フルメタル・パニック」シリーズの第一巻です。秘密軍事組織「ミスリル」に属する主人公が、女子学生の護衛任務を受け、普通の高校へ転校してきます。しかし、軍人である主人公はなかなか普通の生活には溶け込めません。そこで起こるいろいろな事件を書いた本です。

1年4組 松元 俊明

『あなたは公共事業が好きになる』
佐藤正則著 (日刊建設工業新聞社)

本書は市民からの公共事業への強い批判は、明治時代からの役所の発注と建設業の受注だけの二者構造の仕組みに過ちがあるとする。その解決策として、住民の参加や地域社会のニーズに応える情報開示が必要である。実例として諸外国の市民社会の仕組みをわかりやすく言葉で説明した本。

建設環境工学科教官 松原 三郎

『オイスター・ボーイの憂鬱な死』
ティム・バートン著 (アップリング)

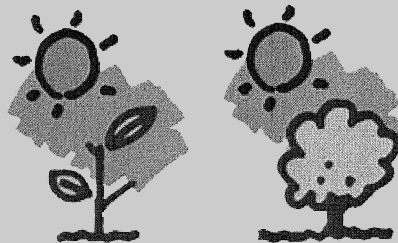
映画界の奇才、ティム・バートンの大人向け辛口絵本。話自体は簡単ですが奥が深い作品です。巻末に英語の原文もあり、原文で読むと新鮮！バートン氏は「スリーピー・ホロウ」、「猿の惑星」、「ナイトメア・ビフォアクリスマス」なども手がけています。

2年E組 村河 智子

『お役にたてないヘンな雑学』
雑学博士協会編 (青春出版社)

僕が紹介したい本は「お役にたてないヘンな雑学」という本である。今テレビで放送している「テレビアの泉」と同じような内容が本になったものだ。この本では245個もの雑学が載っている。しかもくわしく説明までしてくれているので分かりやすい。今まで思っていた疑問も少しは解決するだろう…(´_´)

2年C組 佐藤 知紀



図書館委員会から

古本市の報告

3年C組 辻井 雄



昨年11月の文化祭で自分達図書委員は例年通り古本市を開催しました。古本市といっても古本屋、例えばBOOK-OFF等と違う点はいくつかあります。その目的は、1つは文化祭を少しでも盛り上げること、1つは本をリサイクルすること、1つは売上金を学校または学生のために使うことです。この様に目的が鮮明にあるため、先生方や学生が家で読みあきてしまった小説、参考書、マンガ、さらには、旅行雑誌やCDまで持ってきてくれました。この場をお借りして、古本市に本を寄付して下さった方々にお礼申し上げます。

僕は今回初めてこの古本市に参加したのですが、本に対する見方が変わりました。本は本来多くの人に知識を広めるために生れたそうなのですが、実際そうなのです。自分の本棚に眠っていた本をこの古本市で新しい人が手にしてくれているというのは嬉しいものです。

あまり本を読まないという人もいます。本には様々な種類の本があり、必ず自分に合う本があります。あまり図書館を使わない、小説など読まないという人もぜひ足を向けて下さい。本一冊で物事の価値観が変わったなどということはよくあり、何か必ず内的な変化があります。

また、今回の古本市では5,720円の収入がありました。図書委員会では柔らかいソファを購入しようという意見などができました。

最後になりましたが今一度、忙しい中古本市のために協力して下さいました方々、ありがとうございます。本年度も古本市を行うのでよろしくお祈りします。

スタッフ紹介

- 図書館長 長谷川 隆
- 図書係 大石 洋子
- 加藤 淳一
- 夜間担当 山下 厚生
- 友田 勝子
- どうぞよろしくお祈りします。
- 気軽に声をかけてくださいね。

編集後記

「図書館だより」第31号をお届けします。原稿をお寄せいただいた先生方、学生諸君にお礼申し上げます。特に専攻科修了生、本科卒業生にとっては忙しい最中でしたが、貴重な下級生のための一筆、ありがとうございました。ところで、3月初めにある卒業生が訪ねてきました。今大学院修士課程1年で就職活動の途中に立ち寄ったのだそうです。在学中は余り本を読まなかったが、今は司馬遼太郎や遠藤周作に夢中。是非在校生に本を読むように話してほしいというのでした。(図書館長)